

2020年「高経年化プラントの維持管理」カンファレンスプログラム

6月11日・12日 会場：日本科学未来館

共催：KCI Publishing / Material Technology Institute

2020年3月9日現在

1日目 (6月11日)	
9:10-9:15	オープニング挨拶 Thijs Elshof, KCI Publishing
9:15-10:00	高経年化対応と国際競争力～製油所・石化プラント・発電所を中心に～ プラントの高経年化対応を的確に進めることは、国際競争力強化や地球温暖化対策と深く関わる。日本の製油所・石化プラント・発電所の事例を中心に、この問題を掘り下げる。 発表者：橋川武郎、東京理科大学
10:00-10:30	海外操業会社からの見解（正式題目は後日発表） 発表者：Pak Togar, プルタミナ, インドネシア
10:30-11:00	休憩
11:00-11:30	プラント設備における高経年劣化対策と設備信頼性向上の両立に向けた取り組みと課題 石油精製・石油化学プラントを例として、高経年化の問題に対応しつつ、操業ロスを防止する設備信頼性向上を適正コストで両立させるための取り組みと課題について紹介する。 発表者：長谷川 勝宣、出光興産㈱
11:30-12:00	スマートメンテナンスのビジネスモデル 新しい資産や老朽化した資産をデジタルとインテグラルで「スマート」に維持する機会はますます増えています。「デジタル」とは、デジタル情報処理技術を最大限に活用することを意味し、「インテグラル」とは、サプライチェーンと資産ライフサイクル全体の和を意味します。これがまだ全ての企業に浸透されていない理由は技術的な問題によるもの、それを減速させる多くの場合が組織的で経済的なものによるものです。イノベーションを加速する奨励はないものの、それを減速させる多くの障害は存在します。企業または関係するさまざまな部門が彼らが行っていることに対して報われる方法は、スマートメンテナンスに向けて調整されていません。これは変える必要があり、そして、変わる可能性があります。このプレゼンテーションでは、この不整合の理由と、スマートメンテナンスと資産管理への移行経路について説明します。オランダの機械製造業界、プロセス業界、公共インフラストラクチャのOEM、請負業者、資産所有者のプロジェクトに基づいています。 発表者：Henk Akkermans, World Class Maintenance Foundation / ティルブルグ大学, オランダ
12:00-12:30	出展会社の紹介 (15社 x 2分)
12:30-14:00	昼食
14:00-14:30	エンジニアリング会社の経験 海外プラントの定期修理中の大型の改造案件の計画, 遂行上の留意点 発表者：佐野公俊、日揮グローバル㈱
14:30-15:00	定期修理 発表者：(Fluor またはペトロナスから、海外の発表者。現在交渉中)
15:00-15:30	スマートメンテナンス実現に向けた取り組み 最新テクノロジーを活用したメンテナンスの将来に向けた取り組みを、インフラ維持管理、作業品質、作業計画という視点で実践事例を交えて紹介 発表者：澁谷利行, 富士通研究所
15:30-15:45	休憩
15:45-16:15	個別発表：高経年化事例現象 セッション長：中原正大、旭化成㈱
	SK Energy における経年化プラントの経験と管理 発表者：Jaewoong Kim, SK Energy、韓国
	老朽化した危険なプロセス装置の機能性ならびに石油化学産業における新しい装置の性能信頼性の向上を可能にする、現場設置ソリューション 発表者：Shankar Venkataraman, Schmidt + Clemens GmbH + CO. KG, ドイツ
16:15-16:45	化学プラントの外面腐食現象とその管理 発表者：大島義生、旭化成㈱
16:45-17:15	
17:30-19:30	ネットワーク懇親会

2日目 (6月12日)	
9:15-9:45	<p>圧力容器のクラッド側部材の応力腐食割れとスリーブ適用のリスク 発表者：Raymond Cordewener, R. Cordewener Management & Consultancy BV, オランダ</p>
9:45-10:15	<p>ステンレス鋼インフラの腐食評価完全性を評価するための標準腐食試験手順と実践の限界 ステンレス鋼部品およびインフラの腐食感受性を評価、ランク付け、および定量化するための標準的な腐食方法および試験手順の適用、解釈についての議論を促します。ASTM A262、A923、G48、E108、およびISO12732の長所と短所を理解することに重点を置いて、一般的に適用される試験手順とその制限について簡単に説明。冷間加工およびマイクロ組織鋭敏化の効果が、フェライト系、オーステナイト系、および二相ステンレス鋼（オーステナイト-フェライト系）に関連して、広範囲の腐食試験で比較します。 発表者：Dirk Engelberg, マンチェスター大学, 英国</p>
10:15-10:45	<p>ステンレス鋼とニッケル合金の溶接補修の手引き 何らかの劣化が発生したステンレス鋼およびニッケル合金の修理の可能性について実用的な提案を行います。いくつかの種類腐食攻撃は溶接補修に対する費用対効果が高くないが、他の種類のものは正しく行われれば比較的容易に補修される。必要な溶加材の種類、および金属の準備と修理後のテクニックについてのガイドラインを取り上げます。 発表者：Gary Coates, ニッケル協会, カナダ</p>
10:45-11:15	休憩
11:15-11:40	<p>個別発表：最新技術 パート1 セッション長：松田宏康、(株)ベストマテリア</p>
	<p>ボルディングシュミレータを使ったフランジ締結作業員の技量認定 発表者：JXTG (発表者名は後日発表)</p>
	<p>バルブの経年劣化とその対応 発表者：高輪岳人、東亜バルブエンジニアリング(株)</p>
	<p>配管架台の接触部の腐食有無の判定検査 発表者：渡辺一美 / 岩里拓弥、新日本非破壊検査(株)</p>
12:30-14:00	昼食
14:00-14:25	<p>個別発表：最新技術 パート2 セッション長：有松清高、東亜バルブエンジニアリング(株)</p>
	<p>保温材下腐食(CUI)予測モデル開発 発表者：中原正大、旭化成(株)</p>
	<p>3Dモデルによる未来型設備管理の提案 発表者：坂本 惇、日揮(株)</p>
	<p>回転機械を対象に振動の傾向管理手法の紹介 発表者：大政 貴、新川電機</p>
15:15-15:40	<p>トクヤマにおける動機器管理と安定運転に向けた診断技術の取り組み 発表者：森 圭史、(株)トクヤマ</p>
15:40-15:50	休憩
15:50-16:50	<p>ドクターに質問 司会者： ドクター</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 中原正大、旭化成(株) 2. Gary Coates, ニッケル協会, カナダ 3. Allan Raymond Ramos, Fluor, フィリピン 4.
16:50-17:00	閉会挨拶